

十七文字の抒情詩

ゆうこ



「鬼灯」「星月夜」・・・「その他秋雑詠」

鬼灯は漢字でかくと何だか妖気漂う感じですが、「ほおずき」です。オレンジの可愛い形、私は小さい頃からこの「ほおずき」が大好きでした。丸い実の袋を破らずに爪楊枝でゆっくり種を出して行きます。全部出し終わったらきれいに洗い、舌の先でキュッキュと鳴らします。私は何度やっても上手く鳴らせませんでした。祖母は大変上手に鳴らす事が出来ました。夏の終わりから秋になって鬼灯が店先に並ぶと、おばあちゃん子だった私はいつも祖母の事を思い出します。

星月夜とは秋の澄みきった夜空に燦然と輝く星でいっぱいの夜の事です。月の出ていない夜、星の輝きだけで明るく照らされている夜道・・・秋のきれいな空気を感じさせる美しい季語ですね。もっとも現代ではそれ程空気の澄んでいる場所も少なく、昔のように見上げると怖いくらいの星空なんて余程郊外の田舎にでも行かなくては見かける事はありませんけれど。



「鬼灯」

鬼灯や実の数多きもの選ぶ 健

実の数の多いものを選ぶ・・・って面白い発想で好きな句です

* 鬼灯の実の数多きもの選ぶ

鬼灯や精霊宿す色となり 健

鬼灯の色形は本当に魂を想像させますね。

* 鬼灯の色精霊を宿しをり



鬼灯を鳴らせぬままに祖母を恋ふ ゆうこ



「星月夜」

槍穂高天上天下星月夜 健

うまいなあ～槍穂高の高い山々に登って上も下も一面の星を見たような気がしてきます。すごく良い句ですね。

海に住む魚は多し星月夜 健

満天の星とそれと同じように海の中にたくさんいるであろう魚達対比が面白い句になっています。

星月夜 CD の声独り聞く ゆうこ



「秋雑詠」

楚々として野菊咲き合う坂の道 静子

「野菊の墓」を思わせるような一句です。

このままでも充分ですが、楚々としてが少し説明文っぽいかな・・・と思われるので可憐な野菊が風に揺れているとしてみました。

* 咲き揃ふ野菊揺れをり坂の道

こおろぎの初鳴きチチと厨窓 静子

いい句ですねえ・・・すごく好きな句です。

中七が厨窓と言う呼び方にとても合っていてすばらしいと思いました。

新蕎麦の文字黒々と貼られけり 健

新蕎麦を打つ職人さんの力強い姿が見えてきそう・・・中七がいいのよね。

平積に秋の新刊ならびけり 健

秋の新刊、書店のお薦めが平積みされているんですね。

本好きの健さんならではの句で、面白いなと思います。

* 新刊や秋の書店の顔となり 私ならこうするかな・・・

呉の街省吾を迎る旅ひとつ ちか

むふふ・・・旅ひとつに（珍道中）のルビをふるんだって？

確かに私の粗忽さを暴露した旅ではありました・・・

* 秋空や省吾をたどる呉の街 これで季語が入りますよ。

間引き菜の味わいぎゅつと箸休め ゆうこ



次回の季題は「紅葉」紅葉狩りなど。「朝寒」「夜寒」「他晩秋雑詠」
投句お待ちしております。